

# 生命を育て、生命と向き合う教育

～ 豊かな心、新たな挑戦

## 全国唯一、農業福祉科の教育

平成22年4月 校長 河村英二



本校は、昭和26年の開校、来年60周年の節目を迎える伝統ある留寿都村立の昼間定時制農業高校です。現在まで1300余名の優秀な地域農業の担い手と福祉関係者を輩出しています。平成6年に全国唯一の農業福祉科に学科転換し、3年間または4年間、農業と福祉の学習をします。4年生は海外農業実習、介護福祉士の国家試験合格をめざします。平成21年には、北海道では5校しかない介護福祉士国家試験が受験できる福祉系高等学校に指定されました。

留寿都村は蝦夷富士と称される秀峰「羊蹄山」の南東に位置し、童謡「赤い靴」の舞台となった自然豊かな高原地帯にあり、特産物の大根やじゃがいもをはじめとする畑作農業と道内有数のリゾート施設を有する観光で全国に名を馳せています。

本校は、村の中央に位置し、小中学校や役場に隣接し、校舎前には総合グラウンドと野球場があり、徒歩圏内に寮も完備しています。このような恵まれた環境のなかで、留寿都高生は学習に実習に部活動に日々全力で取り組んでいます。



校訓「豊かな心、新たな挑戦」の下、日々生命を育て、生命と向き合う中で、「豊かな心」を育てています。また、農業や福祉の専門教科の学習を通じて知識と技術を習得し、社会に有為な人材を目指して「新たな挑戦」を続けています。

本校教職員一同、本年度も引き続き、生徒一人ひとりの心に響く教育実践の中で、地域に有為な人材を育成してまいりますので、保護者の皆さま、地域の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。